



米沢有為会 仙台支部だより

第 23 号

令和2年6月8日

発行者

(公社)米沢有為会仙台支部

支部長 甲 國信

仙台市青葉区角五郎2-6-21

TEL 022-222-4790

昨年卒寮生 3 名が来訪、寮母さんと記念撮影 令和 2 年 2 月

有為会の近況

新型コロナウイルス禍の下、支部会員の皆さまには窮屈な生活を送っておられることと思います。有為会の活動も支障をきたしてまいります。これまで米沢で開催してきた通常総会は、6月27日東京興譲館において会長以下ごく少数の人員の出席のみで開催されることになりました。総会の議案の内容は、この支部だよりと一緒に送りした会報をご覧ください。また、正会員の方は、議決権行使書（委任状）を必ず提出くださるようお願いいたします。仙台支部の総会と関連行事は、当初6月6日に開催の予定で準備を進めておりましたが、仙台での3月末からの感染者の急速な増加により無期延期としております。

舎生募集活動… 昨年春の募集は入寮者ゼロの結果に終わりました。東京興譲館も入寮者がなく、事態を重視した育英事業部は、原因究明のための高校への調査を行い、従来行ってきた置賜の主要高校における有為会の育英事業の説明会の他に、置賜3市5町の広報誌に「寮生募集」を掲載してもらうなど宣伝を強化しました。また、合格が未定の段階で応募ができる予約募集を採り

入れ、受験後直ちに住居を決めたい受験生と親に対応できるようにしました。仙台寮の場合、予約募集への応募はありませんでしたが、5名募集のところ、2名の新入寮生を迎えることができました。なお東京興譲館には10名の新入寮生があり、うち3名は予約内定者でした。

新型コロナウイルス禍における仙台興譲館寮の近況… 宮城県の感染者は3月末に7名でしたが、その後急速に増加しました。しかし幸いなことに4月28日に88名に達した後は、6月2日まで新たな感染者はでていません。

4月1日に本部から「新型肺炎拡大に伴う興譲館寮生への注意喚起について（依頼）」のメールが届き、それに記載された「寮生に対する注意事項」を館長がすぐに掲示、ハンドソープ、次亜塩素酸ナトリウム除菌クリーナーを準備しました。緊急事態宣言が出された4月7日の前日6日の夕方、新型コロナウイルスへの感染が疑われる事態が発生しました。寮母さんと寮長は直ちにその寮生を自室に隔離し、トイレを別にし、食事は部屋に運ぶなど、他の寮生との接触を避ける措置をとりました。幸い翌朝には平熱に戻りましたので、3日ほど様子を見て異常がないことを確かめた後、隔離を解除しました。

多人数が暮らす寮は、感染症の防御には極めて不向きと言えます。4月30日に福島大信天寮の寮生の感染が報道されましたが、他人事ではなく、今後警戒を緩めることなく感染の収束を待たねばならない厳しい状況が続いています。

寮生のアルバイトも難しくなっています。寮生の生活は以前よりも厳しくなっています。また、最終学年の寮生は、就職活動が思うようにできない状況にあります。

四月下旬に、本部からカップ麺の差し入れがありました。また、支部会員や仙台寮OBから、マスク、体温計、レトルトカレー、カップ麺等が届けられ寮生は感謝しています。長期戦となりそうなので、今後も物心両面の援助をお願いします。

寮母の退職と新寮母の募集 14年に渡って仙台興譲館の寮母を勤めた小野寺真知子さんは、昨年末に退職したいとの希望を表明していましたが、退職時期を若干延長し4月上旬で退職されました。新型コロナウイルス禍により、直ちに新寮母の募集に入れずにはいじましたが、幸い、宮城県はこの1ヶ月感染者が出ていないので、近々募集を開始します。募集は求人誌への広告を考えていますが、**支部全員の中に適当な候補を**

ご存知の方がおられましたら、是非、事務局までご連絡ください。

会員異動：昨年の総会以降、年度末までに入会者が4名ありました。一方、退会者が3名ありましたので、年度末での会員数は1名増となりました。

支部理事会：令和元年12月以降
令和元年度第3回理事会

令和2年2月16日(日)

- 議題 ・ 2年度の予算要求
- ・ 会員異動(入会、退会)
- ・ 寮母募集
- ・ 2年度支部総会・講演会・懇親会
- 関連(開催日・会場・講師の選定)

令和2年度第1回理事会

令和2年4月18日(土)

新型コロナウイルスの感染増加により中止、支部総会・講演会・懇親会の無期延期、会員異動(退会)、元年度決算をメール、ファックスにより了承。

(仙台支部長 甲 國信)

会員のコーナー

バルト三国とポーランドを

訪ねる (2)

鈴木 良平

2019/6/11

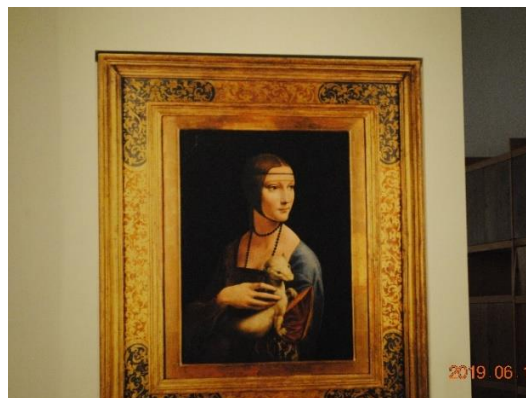
カウナス市からバスで6時間30分ポーランド・ワルシャワ市までは長い。国境を越え市内に入り、まずはシヨパンの像が建つ美しいワジエン公園で降り、長旅を癒し散策する。夕食後は貸し切りのホールでコンサート鑑賞。ショパンのピアノ演奏など生で聞いたことは後にも先にも二回目である。一回目はノルエーのオスロで経験した。今回は大半が女性で占めているので、黄色い声で喜び勇んでいた。正装不要で旅服装で拝聴した。正直いうと拝聴してもわからないが、気分はよかったと自分に言い聞かせた。演奏者はポーランド人ロベルト・スキエーラ氏で八曲ほど演奏してくれた。残念ながら聞き覚えのある曲は一曲もなかった。悲しい限りである。サイン入りのCD一枚を購入、25ユーロ。

6/13

ワルシャワから旧首都のクラクフ

に向う。世界遺産の文化・歴史の中心地区を観光する。バベル城、国立美術館ではレオナルド・ダヴィンチの名画

「白貂を抱く貴婦人」を鑑賞



国立美術館で絵画、彫刻などを鑑賞後、夕食にポーランド風カツレツを食べに行く。期待して行ったがレストランでは、主食のポリユウムはあるが、肉が固く馬肉の筋あたりを食べさせられた感じであった。バルト三国では連日30度あり、のどが渴いて仕方がない。食前は、生水は危険であるのでビールが欠かせない。

6/14

現在首都はワルシャワであるが、遷

到着すると既に大勢の人が入場を待っている。ガイドに聞くと世界各国から観光客、中高校生、学校に上がらない子供達も入場待ちに続々と集まってくる。事前に手荷物は A4 版ぐらいに制限される。見学時間は 1 時間 30 分ぐらいで、見学者は大部分外国人であり、特に中高校生・子供たちは修学旅行のようである。第二次世界大戦の説明と「なぜナチにより周辺国の知識人・教師・芸能人・ユダヤ人などが浄化の対象にされたのかなどか」が説明されているのか



アウシュビッツ収容所の前

都する前はクラフク市でありバスで移動する所要時間約 1 時間 30 分。目的は国立博物館であり、負の世界遺産でもあるアウシュビッツ収容所である。



アウシュビッツ強制収容所入口 (門扉に Arbeit Macht Frei)

と思われる。簡単に収容時の設立と、ここで何が行われたのかをインフォメーションから抜粋してみると以下の通りである。
1940年にポーランド人の政治犯を収容するため設立され、時がたつにつれナチは様々の国の市民、主にユダヤ人やソ連軍の捕虜ジプシーなど欧州全域から送り込んだ。周辺の町はドイツ第三帝国内に編入され、ナチは同時に名前をアウシュビッツと変え、1939年末には親衛隊と警察の司令部に強制収容所の構想が持ち上がった。収容所は1942年には二階建て28棟に増え、一時20,000人以上に達したとされ、平均は13,000から16,000人であったとされている。

ビルケナウ強制収容所チエコ国境近くアウシュビッツの広さ7倍175ha

ここでも収容できなく、3km離れたアウシュビッツIIビルケナウと名称化され増設された。



収容所内、逃亡者防止用高電圧線網



ビルケナウ強制収容所



ガス室入口(ガスはチクロン B 殺虫剤)



「プライバシーのない」トイレ



三段式ベット

着後すぐカス室に送られ殺された。そのため正確な犠牲者数を確かめることが困難であった。長年にわたってこの問題は多くの国々で歴史家のテーマになっていて、推計の中で約150万人が犠牲になったと。

博物館として展示されているものは、両施設に送られてきた人の身に着けているもの、すべてを死体から取り外し眼鏡、イアリング、金歯の金、髪の毛、義手・義足など、利用できるものは活かしたようである。遺体は焼却後、証拠隠滅のため、粉碎して肥料にし

ビルケナウで最も重要なのは四か所のガス室・焼却炉の死骸と死体の焼き場、収容所へ追放された人々を選別した鉄道専用の荷下ろし場、人々の骨粉が池、アウシュビッツにおいては、死の収容棟 である。

アウシュビッツの施設は残っているがビルケナウはバラック作りのため、入口だけはレンガ造りで残っているものの、木造バラックは数棟残っている程度である。内部は前頁の一枚と二枚の写真のとおりである。

上記のアウシュビッツとビルケナウの施設は博物館として一般公開されている。1942年ころから収容所は欧州のユダヤ人虐殺施設となり、大部分は登録や囚人番号がなく列車などで到着後すぐカス室に送られ殺された。そのため正確な犠牲者数を確かめることが困難であった。長年にわたってこの問題は多くの国々で歴史家のテーマになっていて、推計の中で約150万人が犠牲になったと。

た模様である。

ことごとく各国から送られてきた犯罪者、ソ連軍の捕虜、政治犯、ユダヤ人などドイツ親衛隊に背く者は個々の施設で抹殺され、持ち運んできた財産は没収されたのである。ナチスの残忍極まる行為が、この博物館で見せつけられた。

思うにヒットラーはじめとしてナチスの幹部はドイツがユダヤ民族に征服されるのではないかと思ひ込み、他国に散らばったユダヤ民族を含め、上記の施設に収容し殺害したのではなからうか。真実は不明である。

独裁政権及び独裁者のもとのナチスという集団の行為は残忍であり卑劣であり、戦争の悲惨さだけがのこるものである。

最近分かったことであるが、死体を処理していた作業員が記録していたメモが土の下に埋められた瓶から発見された。解読した内容によるとアンダコマンダ氏の手紙には人種・宗教など痕跡を消すため、ホロコースには原因があり、展示されていると。私には展示品からは読み取れなかった。

2019/12/5 (仙台市泉区在住)

ビルケナウで最も重要なのは四か所のガス室・焼却炉の死骸と死体の焼き場、収容所へ追放された人々を選別した鉄道専用の荷下ろし場、人々の骨粉が池、アウシュビッツにおいては、死の収容棟 である。

アウシュビッツの施設は残っているがビルケナウはバラック作りのため、入口だけはレンガ造りで残っているものの、木造バラックは数棟残っている程度である。内部は前頁の一枚と二枚の写真のとおりである。

上記のアウシュビッツとビルケナウの施設は博物館として一般公開されている。1942年ころから収容所は欧州のユダヤ人虐殺施設となり、大部分は登録や囚人番号がなく列車などで到着後すぐカス室に送られ殺された。そのため正確な犠牲者数を確かめることが困難であった。長年にわたってこの問題は多くの国々で歴史家のテーマになっていて、推計の中で約150万人が犠牲になったと。

仙台支部年間行事予定

※仙台興譲館行事

- ※4月5日(日) 大掃除・寮生総会
- 4月18日(土)
- ※春の交流会(寮生会主催) (会場: 仙台興譲館) ↓ 中止
- 6月6日(土)
- 令和2年度仙台支部通常総会(仙台ビジネスホテル) ↓ 無期延期
- ※6/7月前期リクレーション行事
- 6月27日(土)
- 令和2年度米沢有為会定時総会
- ・会場: 東京
- 8月5日(水)
- 夏の交流会(七夕前夜祭・広瀬川原花火鑑賞会) (会場: 仙台興譲館屋上)
- ◆8月以降の支部行事は未定 ↓ 開催なし
- ※9月27日(日) 大掃除・寮生総会
- ※11月 後期リクレーション行事
- 12月12日(土)
- ※忘年会(寮生会主催) (会場: 仙台興譲館)
- ※1月上旬 第一次入寮面接
- ※1月14日(月) どんと祭
- 1月16日(土)
- ※新年会兼卒業生歓送コンパ(寮生会)

主催 (会場：仙台興譲館)
 ※2~3月 温泉旅行又は食事会
 ※3月上旬 第二次入寮面接
 ※3月中旬 第三次入寮面接
 ※3月下旬 第四次入寮面接
 ※3月 末日 寮生総会

会員異動

退会

芳賀 滋彌 (賛助会員)
 山路 浩幸 (正会員)
 宮坂 匡 (賛助会員)
 (3月31日付)

仙台興譲館だより

仙台興譲館寮生名簿

鹿又 桂司 (東北大学経済学部1)
 [米沢興譲館R2卒] 南陽市出身
 鈴木 優 (東北学院大学経済学部1)
 [米沢商業R2卒] 米沢市出身
 小形 祥史 (東北福祉大学健康科学部)
 リハビリテーション学科3 [米沢興
 譲館H29卒] 川西町出身

◎令和2年度前期寮長
 梅沢 謙吾 (東北大学経済学部4)
 [米沢興譲館H29卒] 米沢市出身

佐藤 大貴 (東北工業大学工学部情報
 通信工学科4) [米沢工業H29
 卒]高島町出身
 渋谷 拓 (東北大学工学部機械知能
 航空工学科4) [米沢興譲館H29卒]
 米沢市出身

島貫 英佑 (東北文化学園大学医療
 福祉学部リハビリテーション学科4)
 [米沢東H29卒] 川西町出身

伊藤 真蒼 (東北大学工学部化学・バイ
 才学科4) [米沢興譲館H28卒]
 米沢市出身

二瓶 太陽 (東北福祉大学総合マネジメ
 ント学部産業福祉マネジメント学
 科4) [米沢東H28卒] 米沢市出身

坂本 雄哉 (東北大学歯学部6)
 [米沢興譲館H27卒] 南陽市出身

支部だより

原稿募集

随想、旅行記、趣
 味など何でも結構
 です。次号は12
 月発行予定、是非投
 稿ください。

行事報告

興譲館寮忘年会(寮生会主催)

令和元年12月14日
 参加者：会員6名寮生5名



興譲館寮新年会(寮生会主催)

令和2年1月18日
 参加者：会員6名寮生6名



寮の庭の植物 「かてもの」

今号の1頁を埋める記事を寮生に依頼していたが、新型コロナウイルスの流行でボツになってしまった。このウイルスのせいで寮生も授業にも行けず、バイトもなくなり、就活も出来ず、さらに寮母さんも退職したため飯を食うにも大変な事態である。戦争直後ならそこら辺に生えてる野草を食べて糊口をしのぐというのもあるが、甲支部長から「あんたなら植物をやっているから大丈夫だよな」、などとからかわれた。確かに私はそこら辺に生えている植物を生で平気で食べる。

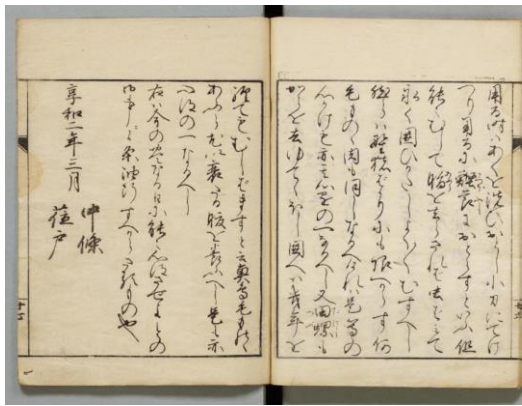
何で埋めようかと過去の支部だよりをめぐっていたら米沢藩の「かてもの」についてまだ書いてないことに気づいた。200年以上前の江戸時代(1802年)に刊行された「かてもの」は飢饉戦時中の食料不足の時、多くの人々の命を救った「救世主の本」である。

寮の庭には「かてもの」に載っている植物はないだろうと思っていたが、ネットで確認すると1種類載っていたので驚いた。米沢藩の「かてもの」について紹介しよう。

かてものとは、糧にするものの意味で、飢饉の際にたべられる植物など救荒植物などの知識を民衆に知らせ

るため、米沢藩藩主であった上杉治憲(鷹山)公(1751-1822年)の命によって刊行された本である。

ネットで「かてもの」を検索すると米沢市立図書館ライブラリーの書誌情報が見れ、「かてもの」の全頁が閲覧でき、さらに現代語訳までも載っている(写真)。



最後の頁に中條・莅戸の名前があり、二人が編集者で莅戸は莅戸善政(1735-1804年)で、私の米沢の生家から約300m離れた城南(前の七軒町)の長泉寺に墓があり、看板が道路に出ているので名前は知っていたが何をした人かは大人になるまで知らなかった。中條は中條至資(1771-1814年)で前支部長の中條仁先生の7代前の当主で、二人は米沢藩の奉行職(国家老相当)ということだ。他に何人かの上杉藩の侍医で執筆したことです。

江戸時代に何回かの飢饉があったが、天明(1783年)の大飢饉、天保(1833年)の大飢饉にも米沢藩内で死者を出さなかったというには有名な話ですが、食べられる野草を領民に紹介したことが大きいと思われる。

82種の草木、果実を選び、その調理法を簡潔・具体的に記述してあり、初版は木版で1575冊刊行したという。太平洋戦争直前にも当時の米沢市長が復刻して市民に配布したという。

寮の狭い庭には「かてもの」に載っている草木はないだろうと思っていたが、1種見つけた。それはギシギシ(エゾノギシギシ(写真))である。今年はこのギシギシが寮の狭い裏庭にはびこって何とかしなければと思っていたところである。米沢ではいろいろな山菜を食

べるが、私はギシギシを食べたことがない。タデ科なのでシュウ酸を含み酸っぱい味がすると思うので、寮に行った時若芽をつんで食べてみよう。「かてもの」には「若葉を湯引き水にさして食う又かて物とす」と調理法を書いてあるが。



(仙台興讓館寮館長 滝口政彦)

編集後記… 中世ヨーロッパのペストの大流行でルネッサンスが始まったと言われる。新型コロナの全世界での大流行の後でどのような新しい世界・文化が出現するのだろうか。

編集責任者 滝口政彦